

## \*第2回ワークライフバランスアンケート 全体のまとめ\*

平成23年12月に実施したアンケート対象者数2816名、回収1931名、回答率69%でした。回答者の内訳は、職種は医師・医師以外の教職員20%、看護系職員48%、医療技術系職員14%、事務職員16%、その他1%。男女比は男性26%、女性74%で、未婚者57%、既婚者41%となっています。

### ●勤務について

女性で『結婚・出産後本学での勤務をどのように考えているか』という問いに対し、66%が「継続して勤務したい」、「勤務体系の条件が合えば勤務したい」と回答しています。

また、男性は『配偶者に対して結婚・出産後の勤務をどうして欲しいか』という問いに対し、64%が「配偶者に勤務を継続してほしい」と回答しており、男女とも勤務の継続を示唆する回答でした。

『現在の仕事をしていくうえで支障になると思われる点は』という問いに対し、「出産育児」と答えた人が多い結果でした。

『本学において育児・介護などを両立させて就業するために必要と思われることはなんですか』という問いに対し、「勤務時間の短縮や勤務時間の弾力化など労働時間の配慮」、「福利厚生の実施（保育施設）」、「上司同僚の理解」と答えた人が多い結果でした。

### ●相談窓口について

『勤務を継続していくうえで、生じる悩みを相談できる窓口が院内に必要か』という問いに対し、「是非ともあった方がよい」、「あった方がよい」と答えた人が90%でした。相談希望内容は、“勤務制度・保育園・育児”に関する相談をしたいという内容でした。働き続けられる職場環境の構築には、女性職員の妊娠・出産や保育問題、また介護支援の問題などについての情報提供やコーディネートができる相談窓口の設置は必須と考えます。

### ●介護について

『本学の介護制度の内容を知っていますか』という問いに対し、88%が「知らない」という回答でした。また、『将来、介護のために現在の職を辞めざるを得ない事や介護休暇、介護短縮時間勤務制度を利用することはあり得るか』という問いに対し57%が「利用することがあり得る」と答えています。

『今現在、介護を要する家族がいますか、もしくは以前に要介護者がいましたか』という問いに対し、「いる」191名、「いた」181名だった。そのうち介護支援制度を利用した人は36名、10%でした。

「利用した」と答えた人の中で『大学に望む事は』という問いに対し、「介護制度の整備充実」、「取得をしやすくしてほしい」、「職場の理解と支援」、「相談窓口などでの情報提供」という意見がきかれた。また、「利用しなかった」と回答された中の自由記載に「制度を知らなかった」という回答が多くみられました。

### ●保育園について

保育園については、65%の人が何らかの保育施設を利用しており、病児保育は75%の人が「望む」と答えています。子供が病気になった時は、家族間で都合をつけて対応しているのが結果であった。

『病児保育や夜間保育サービスがあれば当直・夜勤・土日出勤は可能か』という問いに対し50%の人が「できる」と回答しています。

『育児休業からの復帰時にどんな指導やサポートがあればよいか』という問いに対しては「多様な勤務体制」、「院内保育の整備」、「職場の環境づくり」をサポートとして欲しいとの回答でした。また、自由記載欄には院内保育園の充実を望む声が多くみられました。

### ●まとめ

アンケートの結果より推察されることは勤務を継続していくためには職場の理解、協力を得られる環境作りと多様な勤務体制の構築が望まれているということである。まずは各種制度の内容や申請方法などの情報を提供し、育児・介護休暇などの制度を取得しやすいような職場環境を整えていくことが先決であり、その上で、短時間勤務やフレックスタイムの導入などの多様な勤務制度の導入・整備を検討していく必要があると考えます。

環境作りのひとつとして、病児（病後児）保育を含めた院内保育園の整備は急務であり、その際、預け方・保育時間・預けられる年齢の幅を広げるなどを検討していく必要がある。

女性だけに支援の視点を当てるのではなく、男性職員も含め全職員のワークライフバランスの推進を図ることが重要であると考えます。